

胸部心臓血管外科この一年

胸部心臓血管外科医長 眞岸 克明

診療スタッフ

診療スタッフは平成18年4月以降、和泉裕一、眞岸克明、清水紀之、内田大貴の4名で引き続き診療にあたりました。2年目のチームとなり、有機的、機能的な診療を行えたものと思います。

診療

平成19年の手術件数は221例でほぼ例年並みの手術数となりました。心大血管手術は54例、末梢血管疾患は110例となりました。本年の特徴として、腹部大動脈瘤に対するZenithステントグラフトによる治療を開始したことがあげられます。当科では、約10年前から大動脈瘤手術にステントグラフトを使用しておりますが、従来はCustom Madeでした。しかし、今後は各メーカーから供給されるステントグラフトを使用できるようになり、症例の制約はありますが低侵襲な手技による大動脈瘤手術が増えることが予想されます。

また患者様が、従来の道北地方からさらに東部、北紋地方から遠軽方面に広がりました。緊急、待機症例ともご紹介いただきました診療担当先生には大変感謝いたしております。

学術活動

日常診療のほか、学術活動にも積極的に参加するように心がけております。全国学会では2題、地方会や研究会で13演題の発表、セミナーなどで2題の講演いたしました。いずれも心臓血管疾患関連の内容でありました。論文発表は、英文誌1編、邦文誌3編、名寄市立病院医誌へは共著を含め4編の執筆を行いました。

おわりに

平成19年は、手術症例は例年並みでしたが、当科の医療圏は道北のみならず東部へと確実に広がっております。今後とも先端の医療を導入できるよう、また、多くの循環器疾患症例に適切な医療を行えるようなおいっそうの研鑽を積んでまいります。臨床、学術ともに進めるためには看護スタッフをはじめ、薬剤部、臨床工学科、放射線技師、検査技師の皆様など多くの病院スタッフに支えられ初めて行えることと思います。今年も、深夜や早朝の呼び出し、徹夜での治療の際にもよろしく願いいたします。

名寄市立総合病院胸部心臓血管外科
平成19年手術症例

1. 心・大血管疾患	54例	
冠動脈疾患(単独)		29
弁膜疾患(単独)		4
胸部大動脈疾患		12
先天性心疾患		1
収縮性心膜炎		1
慢性肺血栓塞栓症		1
腫瘍・その他		2
複合手術		4
2. 末梢血管疾患	110例	
腹部大動脈瘤		26
末梢動脈疾患		37
下肢静脈瘤		33
内シャント造設		14
3. 胸部, 肺疾患	18例	
肺 癌		9
気 胸		3
膿 胸		3
縦 隔		1
その他		2
4. その他	39例	
総数	221例	